

普及・啓発活動

1.1 全国溶接技術競技会

溶接技術日本一を競い全国コンクールの名で親しまれている全国溶接技術競技会は、1952（昭和27）年の第1回から2008年開催までに54回を数えるに至っており、出場する選手のみならず全国の溶接関係者にとって最大イベントの一つとなっている。表1.1に最近10年間の開催状況を示す。（写真1.1、1.2参照）

出場者は、全国都道府県から選抜された代表者で、原則的に各県1種目1名が出場枠となっている。

競技種目は、アーク溶接の部と炭酸ガス溶接の部の2部門である。

競技課題は、5年毎に見直しが実施されており、現行のものは2005年の第50回大会から採用されているもので、薄板が立向1パス溶接で、中板は横向レ形突合せ継手である。また、この2005年からは使用溶接機としてデジタル溶接機が採用された。

開催地はかつては都道府県持ち回りであったが、2001年からは全国9地区持ち回りとなっている。

また、2004年の第50回大会から最優秀者には経済産業大臣賞が授与されるようになった。

表 1.1 最近 10 年間の全国溶接技術競技会開催状況

回数	年度	期 日	開催地(会場)	最優秀者	
				被覆アーク溶接	炭酸ガスアーク溶接
45	1999 (平成11)	10/23, 24	福 岡 県 (高田工業所研修センター)	原田 芳男 (宮崎, アキタ製作所)	山崎 泰 (石川, コマツ栗津工場)
46	2000 (平成12)	10/28, 29	愛 媛 県 (ポリテクセンター愛媛)	中垣 賢一 (愛知, トヨタ自動車)	中村 秀樹 (広島, マツダ)
47	2001 (平成13)	10/27, 28	神奈川県 (三菱重工業横浜製作所)	荒矢 富成 (神奈川, 東芝京浜事業所)	江口 知行 (広島, マツダ)
48	2002 (平成14)	10/19, 20	広 島 県 (ポリテクセンター広島)	森 和昭 (広島, マツダ)	脇本 昌和 (広島, マツダ)
49	2003 (平成15)	10/25, 26	長 崎 県 (佐世保高等技術専門学校)	吉山 昌弘 (広島, マツダ)	鈴木 淳一 (神奈川, 三菱重工業横浜製作所)
50	2004 (平成16)	10/23, 24	静 岡 県 (浜松技術専門学校)	吉本 浩貴 (宮崎, 向陽鉄工)	柄澤 康敏 (新潟, JR東日本新津車両製作所)
51	2005 (平成17)	10/8, 9	宮 城 県 (ポリテクセンター宮城)	下之蘭和也 (鹿児島, 三洋工機)	大津 文孝 (山口, 日立製作所笠戸事業所)
52	2006 (平成18)	10/21, 22	徳 島 県 (ポリテクセンター徳島)	柳内 信吾 (神奈川, 石川島播磨重工業横浜第1工場)	中前 成史 (兵庫, 三菱重工業神戸造船所)
53	2007 (平成19)	10/27, 28	群 馬 県 (群馬産業技術センター)	村嶋 学 (愛知, トヨタ自動車)	清水 茂寿 (神奈川, 東芝京浜事業所)
54	2008 (平成20)	10/18, 19	福 井 県 (福井産業技術専門学院)	岩丸 敦士 (福岡, エムイーシーテクノ九州事業所)	時松 武志 (愛知, 豊田自動織機)



写真 1.1 全国溶接技術競技会開会式の模様
(第54回大会：2008年10月18, 19日, 福井県)



写真 1.2 全国溶接技術競技会における競技の模様
(第54回大会：2008年10月18, 19日, 福井県)

1.2 機関紙誌・出版活動

1.2.1 機関紙誌

当協会では、週刊新聞の『溶接ニュース』を機関紙、月刊雑誌の『溶接技術』を会誌として指定、会員に配布している。(写真 1.3 参照)

『溶接ニュース』は1948年の創刊で、協会設立にあたった発起人らが協会の設立目的を全国的な溶接技術の普及・啓発と企図していたところからいち早く機関紙を創刊したもので、機関紙の創刊が協会創立よりも早くなったのはこのためである。

『溶接ニュース』は協会本部会員のみならず、全国の支部（指定機関）会員から広く一般にも購読されていて、すでに創刊60周年を経るに至っている。このため紙面内容は、協会機関紙であるとともに、広く業界新聞としての性格も併せ持っている。

『溶接技術』は1953年の創刊で、当初『溶接資料』

として刊行されていたが、1955年から現誌名となり現在に至っている。

『溶接技術』も協会会員のみならず書店等を通じ広く一般にも販売されている。このため誌面は会誌としての内容に加え、広く一般の技術雑誌としての性格も併せ持っている。

なお、機関紙誌の発行に際しては、協会出版委員会のもとに編集委員会を設けて、編集・監修を行っている。

また、発行は当協会の出版局が分離独立した産報出版(株)から行っている。

1.2.2 技術図書

当協会では、技術図書として単行本の刊行を行っている。これは、協会組織の部会・委員会の編集になるものが中心で、共同研究の成果や要員認証のテキストなどがおもなものである。この10年の刊行図書を表 1.2 に示す。(写真 1.4 参照)



写真 1.3 「溶接ニュース」(右)と「溶接技術」



写真 1.4 この10年間の刊行図書

表 1.2 最近 10 年の刊行図書

マグ・ミグ溶接 Q&A	日本溶接協会溶接棒部会技術委員会編	1999/4/1 発行
アーク溶接粉じん対策教本	日本溶接協会編	2000/1/20 発行
建築鉄骨ロボット溶接入門 設計と施工のポイント	日本溶接協会ロボット溶接研究委員会編	2000/11/1 発行
溶接安全衛生マニュアル	日本溶接協会安全衛生・環境委員会編	2002/4/30 発行
新版 溶接実務入門 手溶接からロボットまで	日本溶接協会編	2002/5/30 発行
ステンレス鋼溶接トラブル事例集	日本溶接協会特殊材料溶接研究委員会編	2003/4/15 発行
JIS 銀ろう付 受験の手引	日本溶接協会広報出版委員会編	2003/5/30 発行
JIS プラスチック溶接 受験の手引	日本溶接協会広報出版委員会編	2003/12/1 発行
JIS チタン溶接 受験の手引	日本溶接協会広報出版委員会編	2004/2/20 発行
CD ブック アーク溶接の世界	日本溶接協会電気溶接機部会編	2008/4/15 発行

なお、発行は機関紙誌同様産報出版から行っている。

1.3 国際ウエルディングショー

国際ウエルディングショーの開催は1969年が第1回で、以来、隔年に東京と大阪を交互に開催され、2008年で40年20回の歴史を数えるに至っている。最近10年間の開催状況を表1.3に示す。主催は当協会と産報出版が共同して行っている。

同ショーは、ドイツのエッセンフェア、アメリカ

カのAWSショーと並んで世界三大国際溶接展示会の一つとして位置づけられ、先端技術が揃って展示されるところから世界的にも高い評価を得ている。(写真1.5参照)

同ショーが溶接技術の開発を促進させ、広く普及させた貢献は極めて高いものと言える。

表 1.3 最近 10 年間の国際ウエルディングショー開催状況

開催期間	開催地	テーマ
2000年4月12～15	インテックス大阪	21世紀の扉を開く溶接・接合技術 —考えてみませんか、ものづくりの原点を—
2002年4月24～27	東京ビックサイト	ITがひらく溶接新時代 —環境にやさしいファブテックをめざして—
2004年7月14～17	インテックス大阪	世界をつなぐ溶接・接合技術—日本からアジアへそして世界へ—
2006年4月12～15	東京ビックサイト	いまここから始まる新しいステージ —溶接・切断・表面改質・検査のソリューション—
2008年4月9～12	インテックス大阪	ものづくりルネッサンス—溶接のトータルソリューション—



写真 1.5 2008年4月の「国際ウエルディングショー」(インテックス大阪)